

# アカシア夜話 アカシアンナイト 第1話



## 日本を動かすアカシア人脈

広島高師附属中学の初めての卒業式が行われたのは、1910年。以来、1万4千人以上の卒業生が、世紀を超えて、活躍を続けてきた。

アカシアの大先輩のエピソードをじっくり聞く「アカシア夜話」の1回目は、石井泰行・アカシア会会長(43回、賀茂鶴酒造会長)。昭和30~40年代、財界四天王と謳われ日本の高度成長をリードした永野重雄さん(9回)、櫻田武さん(12回)らの思い出を聞いた。

### \*\*\*\*\* 財界四天王 破天荒永野さん(9回)

永野さんは、けた外れの人じゃったねー。理事長をしとられた大箱根CCで、アカシア会の仲間と連れだってゴルフを1ラウンドして、箱根の別荘へ行く。夕方まで碁を打って、午後8時頃から麻雀。私は、別荘のカウンターバーでめったに飲めんモルトウイスキーを飲んで、そのうち寝てしまうが、朝起きたら、まだガラガラ麻雀が続いとる。永野さんが勝ってるんだが、「これでみんなで飲めや」と当時の金で10万円位ポンと出して、「それじゃわし、これからアメリカへ行ってくるけえ…」。徹マンしてそのまま、アメリカ出張に行くんじゃけえ。永野さんとともに付きおうた人は何人死んどろうか(笑)。巨人、超人じゃったねえ。

《永野さんは、富士製鉄社長として戦後最大級といわれる八幡製鉄との合併を実現し、新日本製鉄を設立、初代会長に就任。日本鉄鋼連盟会長や日本商工会議所会頭など要職を歴任した》

永野さんに言われて、総評の太田薫議長に酒を届けたことがある。財界と労働界のそれぞれトップじゃが、二人は六高(第六高等学校・岡山)の柔道部の先輩、後輩の関係。永野さんは「太田いうのは、ひとかどの男よ」と認めていたし、春闘の時なんかでも、二人の間では話はずいとおったんじゃと思うよ…。太田さん曰く、「永野さんが柔道が強かった理由は、柔道着を一回も洗うたことがないから。寝技で押さえられたら、臭うて、臭うて…」。そんな関係だった。

### 田舎もん？ 好物は庚午のイチジク

永野さんは案外、可愛いところもあって。シーズンになると、「石井！ 庚午のイチジク持ってこい」と言うんで、広島駅前の果物屋で買って上京し、すぐに新日鉄の会長室に届けた。秘書も

心得たもんで、「ハイ、冷蔵庫へどうぞ」。永野さんは会長室でかぶりつく。「家へ持って帰ったら、田舎もんじゃ言うて、ばかにされるけえの」と言ってね。

### 財界四天王 清の櫻田さん(12回)

櫻田さんは清の人。東京アカシア会の総会用に、酒屋をしとる私がビールの寄付を集めて回った事が知れて、怒られてねえ。櫻田さんは若いもんに恥ずかしい事をさせちゃいけないと思うたんじゃろうね。自分が社外役員をしとるアサヒビールから1箱届けさせたが、人数を考えると1箱じゃ足りん。私なら5箱はもろうてくるのにねえ。《櫻田さんも六高、東大法学部と進み、柔道部に在籍。日清紡績社長や日経連会長などを務め、ミスター日経連と呼ばれた。池田勇人内閣(1960~64)の頃には、永野、櫻田両先輩は、フジテレビや産経新聞の社長を務めた水野成夫、影の財界総理と言われた小林中と共に、財界四天王と称された》



### 東京アカシア会 同窓会はOBの手で

東京アカシア会は、戦後4、5年たってスタートしたアカシア出身の財界人の集まり「槐(えんじゅ)会」が前身で、広島のアカシア会より歴史がある。昭和32(1957)年に私が東京アカシア会に招集された頃は、永野さんの弟の俊雄さん(12回)が五洋建設の社長をしとられた関係で、五洋建設の秘書課が事務局になっていた。同窓会の仕事を秘書に手伝わせちゃいけないということで、春と秋の総会の前になると上野で鉄道の信号関係の会社をしとられた三好正さん(21回)の事務所に集まるようになってね。事務局の中心は、洋傘の会社を経営しとられた山岡敏雄さん(29回)や保険会社で役員をされていた戸井正典さん(24回)。私も1合瓶を上着の両ポケットに入れて通ったもんです。《自署名簿に「商売人になる」と書いた石井会長は、早稲田大学卒業後、賀茂鶴の東京出張所に入社。1979年まで23年間、東京で配達や営業を担

当しながら、東京アカシア会の活動を支えた》

## 公私の区別厳しく

その頃はまだ1回の先輩から来とられてねえ。年配のOBも老眼鏡をずり上げて、名簿の整理や案内の発送をしたもんよ。硝子メーカーの役員をしとられた森本政吉さん(2回)や、日本開発銀行総裁を務めとられた太田利三郎さん(10回)らも、公私の区別ははっきりさせて、おつきの車は使わず、地下鉄を乗り継いで出席されとりました。

東京アカシア会の会計が、6円合わん事があってね。半年に1回、総会の後に計算するだけなんで、無理もないが。櫻田さんや永野兄弟、その弟で日本航空会長を務めた伍堂輝雄さん(14回)に叱られるんじゃが、どうしても合わん。6円くらい誰かが出しゃあええようじゃが、そういうもんじゃない。そのへんはきっちりしとったねえ。

《1980年前後には、田中敬・大蔵事務次官(32回)、井内慶次郎・文部事務次官(32回)、粟屋敏信・建設事務次官(35回)と、官僚の3トップをアカシア会員が占めた》

## 破格の3次官祝賀会

銘木店の藤居平一さん(24回)が永野さんや櫻田さんに声をかけて、新橋の料亭でお祝いの会をした。会費が3千円じゃというんで、櫻田さんは「安いじゃないか」という普通の反応だが、永野さんは「この料亭の女将は、藤居の(小指を立てて)コレじゃったんか」。発想もユニークな人でした。あとで勘定をみたら1ヶタ違うとったけど…。

私は、酒屋をしとったんで、どこへでも入っていけるし、飲むのが仕事じゃけえ、いろんな話を聞かせてもらえる。永野俊雄さんの長男の泰道さん(41回)、次男俊次君(43回)も同窓で、私も永野さんにとっては、息子みたいなもんじゃったんじゃろうね。息子には話せんことも言えたんじゃないかな。

\*\*\*\*\*  
目を細めて、20~30歳代の青春時代を語る石井会長の笑顔はやんちゃ坊主そのもの。半世紀前のことなのに、諸先輩の名前がポンポン飛び出し、当時の東京アカシア会の雰囲気伝える秘話が次々と披露された。夜のアカシア人脈は、日本を動かしてきたのか！！

アカシア会の自由な気風と、公私をはっきり峻別する美点を受け継ぎ、伝えていくのが、石井会長に続く世代の使命だろう。

【2007年4月10日、東広島市西条本町9-11、Tel.082-422-8008の仏蘭西屋(賀茂鶴酒造直営店)で取材。文責：山手秀之(70回)、甲斐稔(63回)】